

高精度Wi-Fi 無線温湿度データロガー (センサー内蔵型)

センサー精度と情報

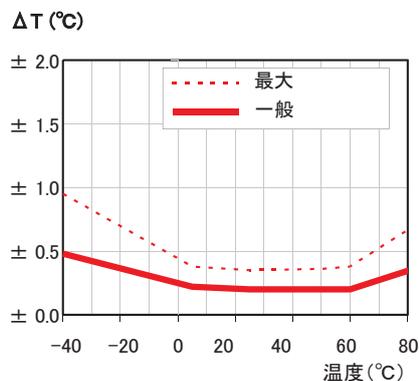
湿度データロガーの湿度測定素子は、さまざまな化合物にさらされることで汚染される可能性があります。これらの製品は、溶剤やその他の有機化合物などの揮発性化学物質の近くに保管しないでください。一般的に、材料または化合物が強い臭気を発する場合、湿度データロガーをその近くに置かないでください。さ

極端な条件や化学物質の蒸気にさらされた場合は、内部センサーを正常な状態に戻すために次の再調整手順が必要になります：

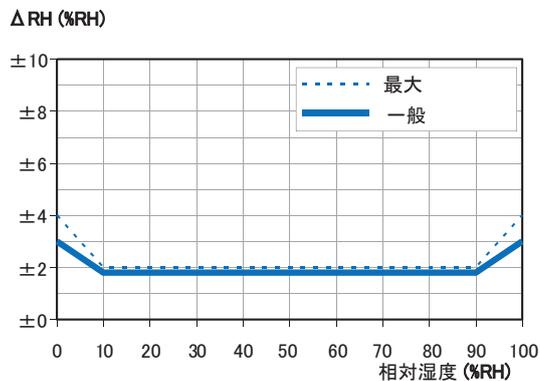
ベーキング 湿度5%RH以下、温度80°Cの条件下で36時間放置
リハイドレーション 湿度74%RH以上、温度20~30°Cの条件下で48時間放置

高レベルの汚染物質は、内部センサーに永久的な損傷を与える可能性があります。

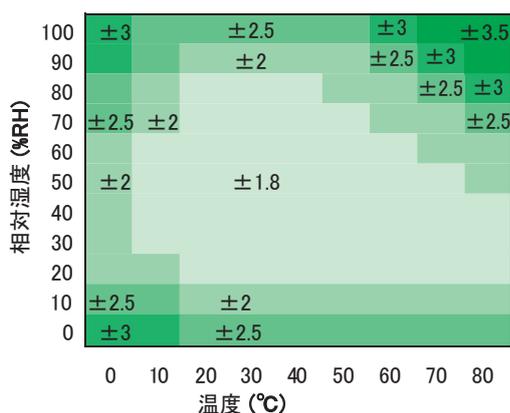
温度の一般及び最大誤差



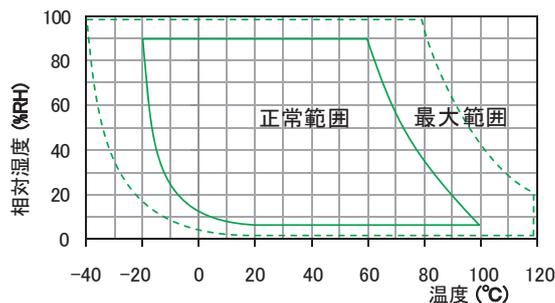
温度25°Cでの一般及び最大誤差



温度0~80°Cでの一般的な相対湿度精度



操作条件



通常範囲外の湿度レベルに長期間さらされると、RH測定値が一時的にオフセットされる可能性があります。(60時間後±3%RH)それほど極端ではない状態に戻ると、デバイスはゆっくりと正常状態に戻ります。

周囲条件の変化を追跡する場合、データロガーの湿度センサーの応答時間は、読み取り値の90%に達するまでに約20分かかります。ただし、湿度の段階的な変化を測定する場合(たとえば、製品を校正する場合)、新しいレベルに安定するのに十分な時間を確保するために、ユニットを最大4時間放置することをお勧めします。

相対湿度の値は、当然のことながら温度変化の影響を受けやすいことを覚えておく価値があります。たとえば、周囲温度で相対湿度が約90%RHの場合、温度が1°C変化すると、最大-5%RHの変化が生じます。したがって、複数のデバイスを比較したり校正したりする場合は、温度の変動を考慮する必要があります。